

こたばの力 からだの力 こころの力
園長室だより

城南学園幼稚園 園長 太田友子 令和3年7月1日

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園

子どもは大人の反応を見て学ぶ！



夏到来！
～ 水遊びに夢中です ～

早くも7月に入りました。

園庭ではどろんこ遊びや水遊びに夢中になっている子どもたちがいます。お洗濯をお願いします！

さて、少しずつですが、行事も開催され始めました。歳児別に実施した参観日では、「子どもたちの園歌を久しぶりに聞いて感激しました！」との嬉しいお声が聞こえてきました。短時間でしたがご参加ありがとうございました。



6月29日(火)には、30名の保護者の参加を得て、給食試食会が開催されました。保護者会役員の皆さまの万全な感染防止対策には頭が下がりました。敬服するばかりです。ありがとうございました。

また、30日(水)には、歳児別のクラス委員総会も開催され、委員のご紹介や夏祭りの役割等についてのお話がありました。連日準備のためにお集まりいただいた会長様はじめ役員の皆さま方、ありがとうございます。そして、クラス委員をご快諾いただいた皆さま、一年間どうぞ宜しくお願いいたします。

今後も、感染症の拡大防止に対して油断ならない状況下ではありますが、課外クラブも開始されます。体調管理には十分にご留意いただき、お迎え時の密を避けるよう、ご協力をお願いします。

「個人懇談会」

～ 共に育てるパートナー ～

右ページのように、子育てには心配や不安はつきものです。いつでも担任にご相談下さいね。

ただし、お子さんの話を鵜呑みにせず、大人同士の知恵と愛情を寄せ合って、よりよい情報交換をしましょう。個人懇談会では、園での集団生活、社会性、基本的な生活習慣などの観点からお子さんの現状をお知らせします。ご家庭の姿と同じ？違う？でしょうか。



短時間ですがご協力をお願いします。



小学校であった事例ですが、心配のあまり、子どもが学校から帰って来た時に「どうだった？何か嫌なことをされなかった？」と毎日のように尋ねるお母さんがおられました。

子どもは、毎日大勢の友達と学校生活をしているのです。一日中何事もない日はありません。母親の期待する？答えを一生懸命探します。「あっ、そういえば、並んでいる時に〇〇君に押された！」と応えます。すると、母親の出番です。「それでどうしたの？」「先生は知っているの？」などと過剰に反応します。その後はご想像のとおり、学校にお電話が入ります。このようなことを繰り返すうちに、その子は学校に来られなくなりました。お母さんは心配で学校へ行かせられない。次第に子どもは家にいる方が楽に過ごせることを覚えていくのですから。

我が子を守りたいと心配するがあまりに、学校で学ぶべき「他者とのぶつかり合い」やそれを乗り越えて関係を築く「折り合う」力など社会性を身に付ける機会を奪ってしまった事例です。

ではどうすればいいのでしょうか。まず、学校(園)では集団生活で様々な出来事が起こるものです。貴重な生きた学びであると考えたいものです。その上で、できるだけ楽しかったことを聞くようにする。次に、嫌なことを訴えてきたら十分にその気持ちを受け止める。そして、「自分で相手に嫌だと言おうね」「先生にお話しようね」と促す。それでも心配なら、子どもに知られない所で、先生に率直に相談する。ここでのポイントは、子どもに知らせないことです。知ってしまうと、困った時に自分で解決せず親を動かすようになり、思春期には大変苦労するようになります。間違っても「先生にお話したから！」と自慢げに子どもに話すのは危険です。

また、最近「我が子に嫌われたくないので嫌がることはしたくない」と訴えられる場合も珍しくありません。例えば、トイレトレーニングですが、嫌がっても促しながら自立へと導く役割がご家庭にはありません。子どもを大切にすると？今一度、考えたいものですね。

